

第6号

特集

発達障害

發行元

山口市市民活動支援センター さぽらんて

- 住 所 …〒753-0047 山口市道場門前 1-2-19
 - TEL …083-901-1166
 - FAX …083-901-1165
 - Mail …saparent@cable.ne.jp
 - H P …<http://www.saparent.jp>



ええやんピーチ

Vol. 6 誰かのために 何かのために 活動している人を紹介します。



ママかんフリー カフェ 藤田久美さん
主宰

ふじた くみ / 1964年生まれ。山口市出身、在住。小学校教員、精神科クリニックセラピストなどの職を経て、現在は山口県立大学社会福祉学部教授。1999年にボランティアグループ「あくしゅの会」(現: 山口自閉症研修協議会あくしゅ)を立ち上げ、現在代表を務める。障害児や発達が気になる子を育てるお母さんたちが集う場、ママかんフリーカフェ主宰。その他にも、山口県発達障害者支援センターまっぷの母親支援事業や、ボランティア育成に携わる。

山口県立大学 地域交流スペース Yucca
山口市宮野下2689-3

141 083-934-8011

子どもたちと家族の笑顔のために、
理解と支援の輪を
拓げていきたいと思っています。

特別支援学級の子どもたちと校外学習に出かけると、まわりの目がとても冷たく感じられて。まちのいろんな場所で、理解してもらうことが本当に大変でした。

山口ってそんなまちだつたの？

と思つたんですね。

そんな経験で、もつと理解してほしい、障害のある子どもたちが当たり前に暮らすためにと、ボランティ

20代の頃、特別支援学級の教師をしていて、ある自閉症の子と出会いました。その子とお母さんの魅力にひっぱられたというか。ほんとにねえ、当時は勉強不足で大変だったけど(笑)。

そのお母さんは、障害も含めて、子どもをまるごと受け入れていて、いつも笑顔で、ほかのお母さんと何も変わらなくて。しかも、いろんな人からの支援を上手に受けていました。支援を受けるということは、実は受ける側の伝える努力も必要なんです。そして、未熟な若い自分を育ってくれた。尊敬しています。

障害児教育とのあいだ 活動につながるきっかけ

診断前の、うちの子どうなんか
な？ という時期を専門家がどう支
えていくか。診断直後には、気持ち
をわからせたり、悩みを聞いて
たりできればいい。子育てしながら
らでてくる悩みも、その子にあつ
た知恵やアイデアを持つとラクに
なるよ、と伝えたいと思つていま
す。

「ママかんフリー・カフェ」のことをお話させてください！



「ママかんフリーカフェ」お母さんたちのグループ
ママかんと、県立大学の藤田研究室と一緒に運
営。月1回、山口県立大学地域交流スペース Yucca

アグループ「あくしゅの会」を立ち上げました。



サポート団体紹介

ゆずの会

子どもの発達に悩んだり、育て方を考えている親同士がお互いの経験を話したり、情報交換をする中から子育ての工夫や支援のあり方を考えます。毎月1回程度、定期例会を開催しています。どなたでも参加できます。

日時：毎月1回（第3月曜日）午前10時～12時
場所：山口市温田地域交流センター（旧温田公民館）
URL：<http://oconopro.com/yuzu/index.html>
会費：100円（奈良子代）

市内には「発達障害」の方々を支援するサークルや団体がたくさんあります。その一部をここでご紹介。

山口県発達障害者支援センターまつぶ

発達障害児・者本人や家族、その支援に携わる人を対象とした相談機関です。事業の一つとして月1回程度、発達障害児を育てる母親が語り合う場としてママグループカウンセリングを開催しています。コーディネーターはええやんピープルに登場していただいた藤田久美さんです。

参加希望の方は下記へお申し込みください。

住所：山口市仁保中郷50番地
TEL：083-929-5012

子ども発達支援センター愛

住所：山口市富田原町1番50号
TEL：083-933-1070
Mail：ai_yamaguchi@gamma.ocon.ne.jp



「子ども発達支援センター「愛」」に通うまでの気つきのスクリーチを教えてください。
答えていただきました。

アンケート回答者
Aさん（以下A）3歳男児
Bさん（以下B）5歳男児
Cさん（以下C）6歳男児
Dさん（以下D）3歳3か月男児

A 1歳半健診の時、発語・指さしがなかったので、後日個別相談を受けた周りに恵子と同じ年頃の子がないなか、「どうもありがとうございました」とお詫びされ離去するのに困りました。早いうちに療育を受けることができる良かったと思っています。

B 1歳半健診で「目が合わない」、「言葉が出ないなど」耳に聞こえを疑う。小兒科・耳鼻科（耳の聞こえ検査）異常なし。言葉の訓練で月2～4回通う。でも医療福祉センター（耳の聞こえ検査）異常なし→専門医、林先生専門医へ通う手続きなど。

C 初めての子どもだが、色々な面で育てにくく、子育てに四苦八苦していた。1歳過ぎても全く話さない、呼びかけても振り向かない、「こうちゃんおいで」と言っても全然言ふことを聞いてくれないなどなどから主治医にたぶん自閉症と診断された。

D 出産後、入院中からよく泣いていた。退院後も24時間中2時間くらいは泣いていて1歳6ヶ月の健診時に保健師に相談。病院で脳波の検査をすすめられる。病院でのヒアリングで医師より自閉症の疑いと指摘。保健センターで行われていた検査などを受け、1歳10ヶ月の時に、広汎性発達障害（グレーゾーン）と診断。2歳0ヶ月より療育開始。2歳8ヶ月で夫の転勤により山口市内に転居。3歳0ヶ月で「愛」にて療育継続。

市民広報記者、 発達障害を学ぶ

わたしたち、ええやん新聞吉良広報記者は、「よくわからないけれど、気になる! カリタ!」というところから、今回のテーマを決め、車両を重ね、手探りで紙面を作っていました。そのなかでいろいろなことを知り、いろいろなことを考えました。わずかヶ月ですが、日々の記録をまとめてみようと思います。(林田)

2012年
5月10日 テーマ決まる
難しきほど、とにかく明るく、前向きに伝えられたらいいわ、という想いで一氣に書いた。

24日 どこから手をつける?
発達障害ってどういうの?
開拓次世代さんなどのところへ見学に行って勉強させてもらおう

6月 7日 スケジュールをたてる
一回目の訪問は休日もしくは、施設開設をするアートを作っていること。
おしゃべりあるかもしれない園庭が、誰もいたまづするようなものも多かったと興味津々。

14日 見学・ママがんフリーカフェ
■小山 本当にカワイイのよ!
■大曾 先輩ママだけではなく専門家にも話題で相談できる場所アットホームな空間でした。

15日 見学・びほっと
■小山 これから見度について接続が取れているという、ここは出発点、安心でき接種できる場所だ。

15日 25日 アンケート実施
先日作ったアンケートたくさんの方に回答していただきました。
発達障害を知らない人は多いという結果でした。

18日 見学・ゆずの会
■小山 頑張りすぎているお母さんや半音を楽しむ場所でした。
■大曾 学校に入ると手話を理解してどうか言葉をうなじて問題が伝わることも知った。

22日 見学・愛
■小山 はじめて育てる」ということばに感動した。うちの子ちゃんはほめてあげられてるかな。
■大曾 子どもたちがお母さんやお父さんやアドバイスを貰ってばかりいる、お母さんの腰筋筋肉もあるんだ。
■大曾 お母さん一人ひとりお母さん一人ひとりが自分の活動とお母さんの腰筋筋肉の曲がりによって成長。

28日 見学報告会
山口市内にこれだけの活動があるということに驚き、少しの間話を聞くことは、その人にあった時代をもう少し考えることができるということなんです。

7月 12日 紙面構成を考える

13日 小田豊先生講演会
■小山 お母さんたちの活動のドクター、「発達豊かな少額派は特に迷惑をかけてないですよ」と持続発展の務め熱いお手本。

18日 林隆先生取材
■小山 発達的な子どもの行動の下克、「発達豊かな少額派は特に迷惑をかけてないですよ」と持続発展の務め熱いお手本。

19日 午前 富本先生懇親会
■小山 未だ子供としている、元気な子たちが何をするか想像が難しい、自分がなりたいなって思いました。
■大曾 子どもたちが何をするか想像ができないから、アートワーク、林先生を一番ではが大きかったです(笑)。

午後 紙面、練習直し
それそれ提出用紙で聞いてきた専門の先生方の話はなし。
矢野先生はなぜか生きるひとがいて、大変な経験に心がけました。

20日 子ども発達支援センターへの利用者にアンケート実施
20日 回収

26日 2ページ目、お母さん取材
■大曾 朝刊に抜く機会でござって、ありがとうございました!
■大曾 2ページ目の発達障害実現、持続的、お母さんでしたのがブルガルガルはそうでした。

8月 2日 2~3ページ担当打ち合わせ
矢野、春山、デザイナーの白井さんで打ち合わせ。
矢野さんと白井さんなどは持つて、齊藤先生を含むように話し合います。

10日 4ページ担当打ち合わせ
わたしもやつとつながり、やつてのでは?と海苔き集会、田中、林田、山田さん。

子育てに沿われ
夏休み...

9月 6日 午前 ええやんピープル取材
■小山 写真担当、大曾しり写さざで間に写させたりと写真写真、不対は無いといい、
■大曾 久しぶりの取材は、うまく開拓できなかっただけで、その人の言葉に心を惹かれています。

午後 読み合わせ1回目 文字が多くて、4ページどうする?といつける。

13日 読み合わせ2回目 文字であります、いふ文字用語をもじる複数、文字でいよいよのアンケート

20日 デザインお願い 田中さんへ、原稿が写真などを添付を託します。

27日 デザイン確認 作っててくれたデザインを、みんなでチェック、喜んでいた顔。

10月 4日 修正原稿、確認
1月 月 × 口 そして、みなさんのお手
こんな風に、できあがったええやん新聞、ぜひもう一度、本文を読んでみてください。新たな発見があるかもしれません。プレゼントコーナーもあるんです。応募してくださいね。

市民広報記者編集後記
吉良広報記者は、NPOや市民活動に関心のある生徒を募集し、誰かのための活動のために活動している人たちを紹介してくれた人たちです。

藤山 士に30日の取材と写真金額を担当しました。難しく考案がちなテーマが、わかりやすく伝わるといいなという想いから、文章ではなくマンガという形に、楽しく読んでもらえたらしい。

天賀 事前準備、取材を通して、人として命として多くの事を学ばせてもらいました。一人でも多くの方が、知識としてだけでなく、心の面でも理解を深めていただけたら楽が当たる嬉しいです。

赤松 実際の声を聽かせてもらったことで自分を見つめなおすいい機会になった。今回学んだ正しい知識を継ぎ、友人、これから出会う人たちに発信していきたい。

田中 一人ひとりが愛心し、輝ける場所がここ山口にはたくさんあります。画面を通してみなさんの心に響いていたら嬉しい。

林田 多数説が普通で、少數説は異端といふ感じ、いろんな人間がいるのだから迷って当たり前なのに、それを障害と言ってしまうのは中々、どうなんだろう。

林 隆先生の

自己肯定感を育もう

Profile

はやし たかし / 医学博士。山口県における発達障害診断第一人者。NPO法人山口ウッドムーンネットワーク理事長。2012年3月まで山口県立大学大学院健康福祉学研究科健康福祉学専攻長。2012年11月に医療法人テラセラム西川医院発達診療部 部長発達障害研究センターセンター長に就任。

子どもをまるごと認めよう

みんなと同じことが出来ない子どもは、個性や発達特性がみんなとは違う少數派なのです。みんな違う個性豊かな少數派の子どもたちはその子らしく生きていらうだけで、わざと他の子と違うことをしたいわけでも、人に迷惑をかけたいわけでもありません。あらゆることがみんな違うと子どもたちは生きにくくなることがあります。そんなときに親が子どもの全てをまるごとそれ良いと認めてあげることが大切です。親が良いと認めてくれる「いい」とは、世の中が自分のことを良いと認めてくれることになり、子どもたちは世の中で生きていよいと不安は感じになります。焦らず子どもたちの小さな成功を見つけてそれが能力だと評価して大切にしましょ。先入観を消すと子どもの能力を測るものさしは意外とたくさんありますよ!

一般的には偏食はよくないなどと考えられ、健康のためにバランスの良い食事を摂るために矯正指導を受けさせになります。実は、人間の身体は自分にあったものは受け入れますが合わないものは拒否します。ある意味偏食はア

レルギー反応の一つかもしれません。食事には身体の機能維持増進に必要な生きるためにエチケットの食事の二つの食事があるように思います。学校の給食はエチケットの食事の勉強で、お家の食事は生きるために身体を育てる食事なのです。お家では子どもが美味しいと云って食べてくれるものをしっかりと食べさせてあげることが大切です。食事指導に限らず、お子さんは企業戦士と同じようにお家を一步出ると頑張つていま

お家の持つている一番大切な機能は、子どもに限らないのですが、安心と安全を保障する」ことです。養成された元気を取り戻す機能です。そのためには親がお子さんのことを肯定的に見ることがポイントです。どんなことが起こりでも子どもが保育園でどんな儿でもないことをしてお家で担任から散々注意され、お家でもしつかり指導してくださりと厳しく叱られたような時こそ、残り飯はお子さんの大好物を一品余分に作つてあげてください。何があつても親は子どもの方であり子どもは家庭で守られている都合の良いように考えることができます。

山口市がもっと元気になるように市民活動参加のきっかけづくりや、市民活動団体がもっと元気になるための手伝いをしている場所が「山口市市民活動支援センターさぼらんて」です。誰もが心豊かに暮らせるまち山口をめざして自ら努力を考え、行動している今。頑張っている市民活動団体の方や、今から活動したい市民のみなさんをお家を一步出ると頑張つていま

現在「ええやん新聞」はさぼらんて職員と4名の市民記者が協力し、企画・取材・編集にあたっています。山口で活動するNPO、市民活動団体や市民のみなさんが手をつなぎ、ステキな輪が広がることを願っています。

さぼらんてからのメッセージ



モニタースタッフ募集

本紙を読んで、さぼらんてで意見交換してみませんか?

対象はこの新聞にピン!と来た方。あなたの直感、感性!でご連絡をお待ちしております。くわしくはさぼらんてまでお気軽にお問い合わせください。(託児もありますよ)

(年2回発行)

問題に答えて

図書カード500円分をもらおう!

プレゼント応募要項

郵送にて以下を明記のうえご応募ください。

- お名前・ご住所・年齢・職業・電話番号
- 問題の答え
- ええやん新聞を手に入れた場所(自宅、お店、施設等)
- 取り上げて欲しいテーマ・市民活動団体
- ええやん新聞へのご意見・ご感想



5名様に
プレゼント

5名様に
プレゼント